

令和5年度農作物病害虫発生予察注意報第6号

令和6年(2024年)2月29日
山口県病害虫防除所

病害虫名 タマネギべと病

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多

3 注意報の根拠

- (1) 2月26日、27日の巡回調査(28ほ場)の結果、1a当たりの越年り病株の発生ほ場率が17.9%(平年6.8%)で、平年に比べ高く、本病が大発生した平成28年と同程度であった(図1)。
- (2) 2月20日に福岡管区气象台より発表された3か月予報では、向こう3か月の気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並の見込みで、今後、本病の発生が拡大する恐れがある。

4 防除方法

- (1) 越年り病株(図2、3)は、4月頃まで発生するため、複数回ほ場を見回り、見つけ次第直ちに抜き取る。また、抜き取り後は、袋等に入れてほ場外に持ち出し、ビニール袋等に密閉するか土中に埋める等適正に処分する。
- (2) 現在、越年り病株の発生が認められないほ場は、マンゼブ剤(殺菌剤コードM03)、フルアジナム剤(殺菌剤コード29)等の保護殺菌剤で、7~10日間隔で定期的な予防防除を実施する(表)。
- (3) 越年り病株、二次感染株(図4、5)が認められた場合は、直ちに治療効果のある薬剤(殺菌剤コード4、11、40等)を散布する(表)。
- (4) 畝間に滞水しないよう、排水対策を徹底する。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 本病に登録のある薬剤は混合剤が多いことから、同一成分の使用回数を超えないよう、必ず成分、殺菌剤コード及び散布記録等を確認してから使用する。
- (2) 水和剤を散布する場合は、薬剤の付着をよくするため、必ず展着剤を加用する。
- (3) 薬剤防除を行う場合は、周辺の作物に飛散させない。

【参考】

越年り病株(えつねん りびょうかぶ)とは

前年の12月頃までに苗床やほ場で本病に感染(一次感染)し、2~3月頃に発病した株で、葉が下側に湾曲、退色して薄黄色となるのが特徴。退色した葉表面部には、灰色~灰褐色のカビ(分生孢子)が形成される。この分生孢子が次の伝染源となり、タマネギの葉に感染(二次感染)と発病を繰り返し、被害が拡大する。

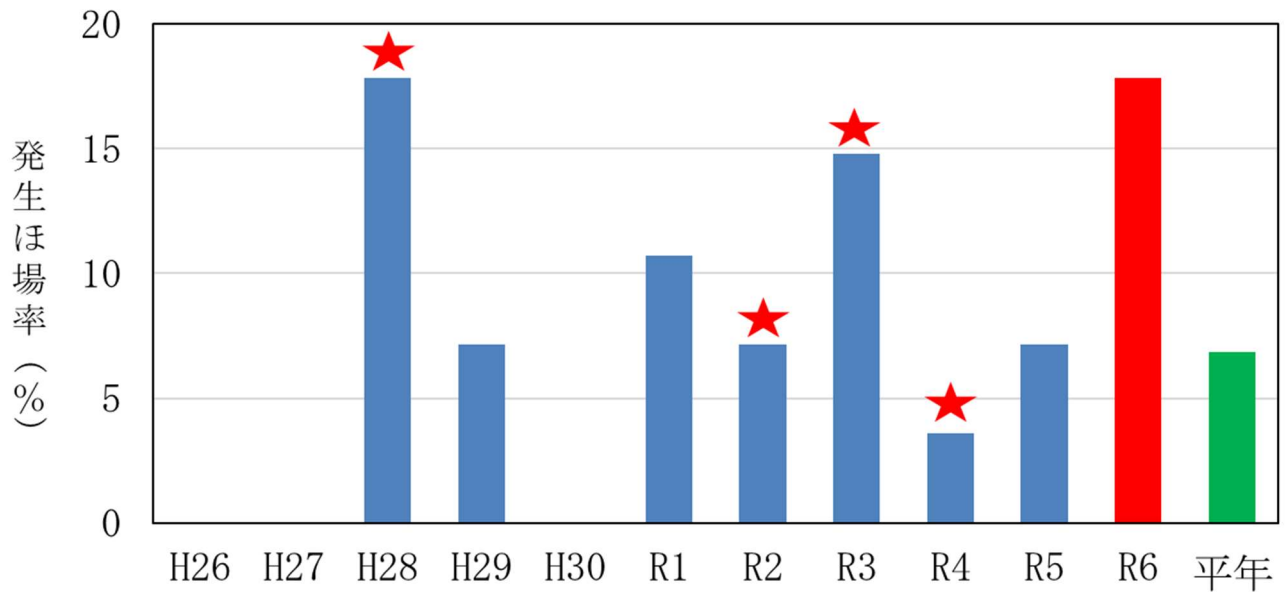


図1 タマネギべと病の越年り病株発生ほ場率（2月下旬）

※ 図中の★印は、タマネギべと病の多発年で、いずれも注意報を発令した年
H28、R3は2月下旬、R2、R4は3月中旬に注意報を発令



図2 タマネギべと病の越年り病株

※ 図中の○で囲まれた株が、タマネギべと病の越年り病株
越年り病株は、ほ場を見回る際、視線を足元よりも少し遠目にして歩き、
周辺の健全株と見比べると生育が劣っているため見つけやすい。



図3 越年り病株の葉上に形成された分生孢子

※ 分生孢子（カビ）は、株全体に見られるが、黄色矢印は特に多く見られる部分



図4 タマネギベと病の二次感染株

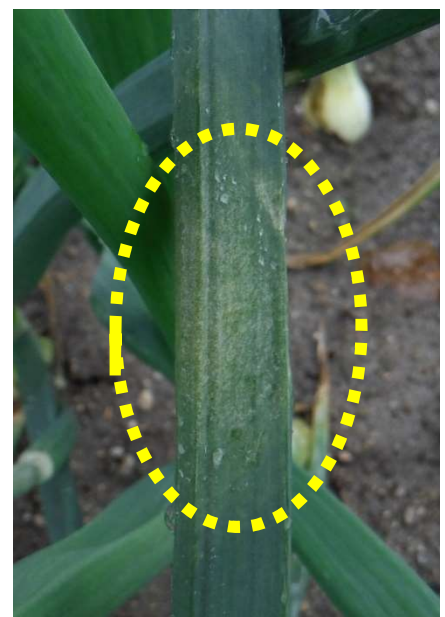


図5 二次感染株の病斑

表 タマネギと病の主な薬剤一覧（令和6年2月29日現在）

殺菌剤コード	一般名(成分)	商品名	希釈倍数・散布液量	使用時期(収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む使用回数
4 M05	メタラキシルM・TPN水和剤	フォリオゴールド	800～1000倍, 100～400リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	メタラキシル及びメタラキシルM4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)、TPN6回以内
M03 4	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	リドミルゴールドMZ	500～1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	マンゼブ5回以内, メタラキシルおよびメタラキシルM4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)
7 M05	ベンチオピラド・TPN水和剤	バジセイバー	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	ベンチオピラド4回以内, TPN6回以内
11	アゾキシストロビン水和剤	アミスター20フロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	アゾキシストロビン4回以内
	ビコキシストロビン水和剤	メジャーフロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	ビコキシストロビン3回以内
11 M05	アゾキシストロビン・TPN水和剤	アミスターオプティフロアブル	1000倍, 100～400リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	アゾキシストロビン4回以内, TPN6回以内
11 7	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	シグナムWDG	1500倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ピラクロストロビン4回以内(但し、定植前は1回以内、定植後は3回以内)、ボスカリド4回以内(但し、定植前は1回以内、定植後は3回以内)
27 11	シモキサニル・ファモキサドン水和剤	ホライズンドライフロアブル	2500倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	シモキサニル3回以内, ファモキサドン3回以内
21	シアゾファミド水和剤	ランマンフロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	シアゾファミド4回以内
21 27	アミスルブロム・シモキサニル水和剤	ダイナモ顆粒水和剤	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	アミスルブロム3回以内, シモキサニル3回以内
21 49	アミスルブロム・オキサチアピプロリン水和剤	ゾーベックエンテクタSE	3000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	アミスルブロム3回以内, オキサチアピプロリン2回以内
27 M05	シモキサニル・TPN水和剤	ブリザード水和剤	1200倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	シモキサニル3回以内, TPN6回以内
27 40	シモキサニル・ベンチアバリカルブイソプロピル水和剤	バトファイター顆粒水和剤	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	シモキサニル3回以内, ベンチアバリカルブイソプロピル3回以内
29	フルアジナム水和剤	フロンサイド水和剤	1000～2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	7回以内(但し、全面土壌混和は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、散布は5回以内)
	フルアジナム水和剤	フロンサイドSC	1000～2000倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	
40 M05	ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤	プロポーズ顆粒水和剤	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ベンチアバリカルブイソプロピル3回以内, TPN6回以内
40 M05	ジメトモルフ・TPN水和剤	カーニバル水和剤	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジメトモルフ3回以内, TPN6回以内
40	マンジプロバミド水和剤	レーバスフロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	マンジプロバミド2回以内
40 M03	ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤	カンパネラ水和剤	750～1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ベンチアバリカルブイソプロピル3回以内, マンゼブ5回以内
43 28	フルオピコリド・プロバモカルブ塩酸塩	リライアブルフロアブル	500倍, 100～300リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	フルオピコリド3回以内、プロバモカルブ塩酸塩2回以内
43 40	フルオピコリド・ベンチアバリカルブイソプロピル水和剤	ジャストフィットフロアブル	3000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	フルオピコリドは3回以内、ベンチアバリカルブイソプロピル3回以内
45 40	アメトクトラジン・ジメトモルフ水和剤	ザンブロDMフロアブル	1500～2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	アメトクトラジン3回以内、ジメトモルフ3回以内
49 40	オキサチアピプロリン・マンジプロバミド水和剤	オロンディスウルトラSC	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	オキサチアピプロリン2回以内、マンジプロバミド2回以内
U17	ビカルプトラゾクス水和剤	ビシロックフロアブル	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	ビカルプトラゾクス3回以内
M01	銅水和剤	Zボルドー	500倍, 100～300リットル/10a	—	—	散布	—
	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	ヨネボン水和剤	500倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	ノニルフェノールスルホン酸銅5回以内
M03	マンゼブ水和剤	ジマンダイセン水和剤	400～600倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	マンゼブ5回以内
		パンコゼブ水和剤					
M05	TPN水和剤	ダコニール1000	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	6回以内	散布	TPN6回以内